

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	6月
上記総会における議決権の基準日	3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
剰余金の配当の基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
名義書換取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
同事務取扱所 (郵便物送付先) (電話お問合せ)	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
上場証券取引所	東京・大阪
公告方法	電子公告により行います。 (当社のホームページ http://www.dnp.co.jp/jis/ir) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

単元未満株式に関するお知らせ

1,000株に満たない株式(単元未満株式)をご所有の株主様が、当社に対しその単元未満株式の数と合わせて1単元になる数の株式を買増請求することができる「単元未満株式の買増制度」を導入いたしております。

また単元未満株式の買増請求につきましても、お取り扱いいたしております。

お手続きをご希望の株主様は、当社株主名簿管理人(みずほ信託銀行 フリーダイヤル:0120-288-324)へお問い合わせください。

DNP

DNP Report Vol.55

株主通信

特集：ディスプレイ製品事業の展開



DNP Report Vol.55



表紙：多様化するディスプレイ製品

CONTENTS

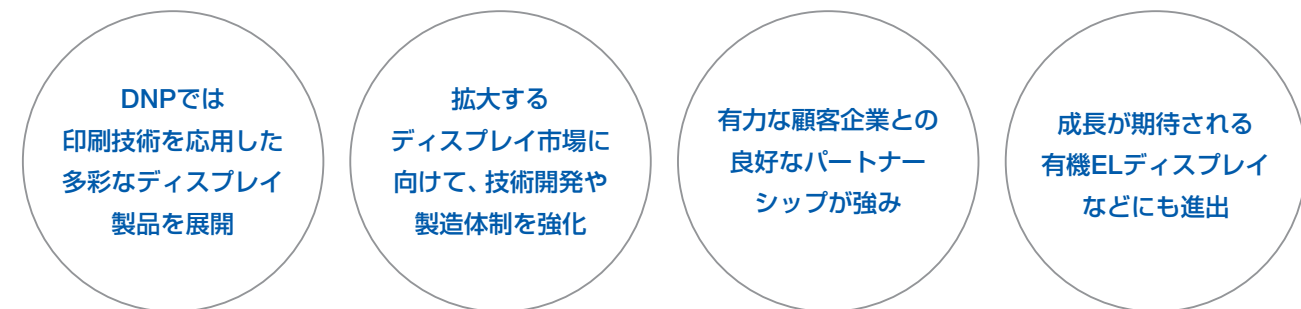
特集：ディスプレイ製品事業の展開	1
第1四半期のご報告	6
事業ハイライト	8
広がるP&Iソリューション	12
会社情報 / 株式の状況	13

大型テレビやノートパソコン用のパネル、モバイル端末や車載機のモニターなど様々な分野でディスプレイ製品の需要が拡大しています。DNPは、急成長が期待されている有機ELディスプレイも含め、多様化するニーズに対応した、積極的な製品開発に取り組んでいます。

※当株主通信は、DNPの事業ビジョンや業績に関する情報の提供を目的としています。記載された意見及び予測は、作成時点でのDNPの判断に基づいたもので、これらの情報の完全性を保証するものではありません。
 ※記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

多彩なディスプレイ製品で成長市場に対応

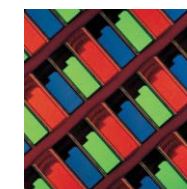
DNPのディスプレイ製品事業は、今から50年前、1958年のブラウン管テレビ用シャドウマスク開発の成功にはじまりました。現在は、液晶ディスプレイ用のカラーフィルター、プラズマディスプレイ用の背面板、反射防止フィルム、プロジェクションスクリーンなど、様々な製品に広がっています。さらに、有機ELディスプレイ向けに製品供給を開始するなど、新たな成長分野での展開もスタートしています。



■ ディスプレイ製品へのDNPの総合的な取り組み

液晶やプラズマなどの薄型ディスプレイの市場は、テレビやパソコン、携帯端末やカーナビなどの用途で、年率約20%のペースで拡大しています。DNPは、液晶ディスプレイのカラー化に不可欠なカラーフィルターをはじめ、光の映り込みを抑える反射防止フィルム、プラズマディスプレイから出る電磁波をカットする電磁波シールドフィルムなど、様々なディスプレイ製品を提供しています。また、急成長が期待されている有機ELディスプレイにも積極的に対応しています。

私たちは、有力な顧客企業とのパートナーシップをさらに強め、最新技術の導入や生産能力の向上など、ディスプレイ製品への総合的な取り組みを推進していきます。



カラーフィルター (拡大)



光学フィルム



ホログラムスクリーン

カラーフィルターの展開

Color Filters

DNPのカラーフィルター事業拡大のあゆみ

1989年	久喜工場	事業スタート (第1世代)
1994年	大利根工場	(第2～4世代)
2001～2004年	三原工場	(第4.5～5世代)
2002年	黒崎工場	(第3～4.5世代)
2005～2006年	黒崎工場	(第6世代)
2006年	DNPカラーテクノ亀山	(第8世代)
2008年	黒崎工場	(第8世代)
2010年	堺工場	(第10世代)
	姫路工場	(第8世代)

薄型ディスプレイの大型化が進み、カラーフィルターも第8世代以上が主力に

2010年3月までに、堺市の第10世代工場をシャープ向けに量産を開始

IPSアルファテクノロジ内(姫路)に、第8世代工場を新たに建設

中小型ディスプレイ市場のニーズにも対応し、多様な製品を提供

■ カラーフィルターの製造体制を強化

DNPは、液晶ディスプレイ市場の拡大に対応し、カラーフィルターの生産能力を順次増強してきました。現在は、埼玉県の大利根工場、広島県の三原工場、福岡県の黒崎第1工場・第2工場、三重県の亀山工場でカラーフィルターを製造しています。今後も需要の拡大と用途の多様化が見込まれており、これに対応した供給体制を整えるため、2009年度以降、大阪府堺市にシャープ株式会社向けの第10世代カラーフィルター新工場を、兵庫県姫路市に株式会社IPSアルファテクノロジ向けの第8世代カラーフィルター新工場を、開設する予定です。

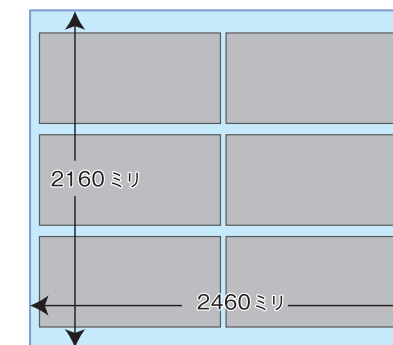
また、大型の液晶ディスプレイの普及にともない、カラーフィルターの大型化も進んでいます。製造効率を上げるにはガラス基板の大型化が必要ですが、第8世代や第10世代では1辺が2m以上で、厚さ0.7mmほどのとても薄いガラスを破損させることなく、高い精度で大量生産する技術が必要です。DNPは、こうした製造ノウハウを確立し、高い品質の製品を供給し続けることによって、顧客企業の信頼を獲得しています。

■ 技術的な強みを生かした事業の広がり

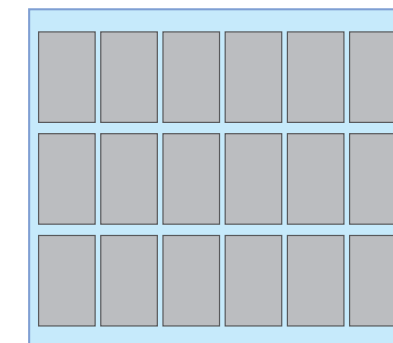
DNPのカラーフィルターには、印刷で培ってきたパターンニング技術と製造ノウハウが応用されています。2006年には、世界で初めて、インクジェット方式による第8世代カラーフィルターの量産化技術を確立しました。DNPは、従来からのフォトリソグラフィ方式とインクジェット方式という2つの製造方法を駆使することで、革新的な生産ラインを構築し、競争力をさらに高めていきます。

中小型の液晶ディスプレイでも、最近注目されているスマートフォンや携帯ゲーム機にDNPのカラーフィルターが採用されるなど、国内外の顧客企業から高い評価を得ています。さらに、屋外でもはっきりと見えることが求められるゲーム機や携帯電話、高い信頼性と広い視野角が求められるカーナビ用のモニター向けなどにも製品を供給しています。また、次世代ディスプレイとして期待されている有機EL用のカラーフィルターについても、DNP独自の技術開発力で高品質な製品を提供して、パネルメーカーとの関係をより強固にしていきたいと考えています。

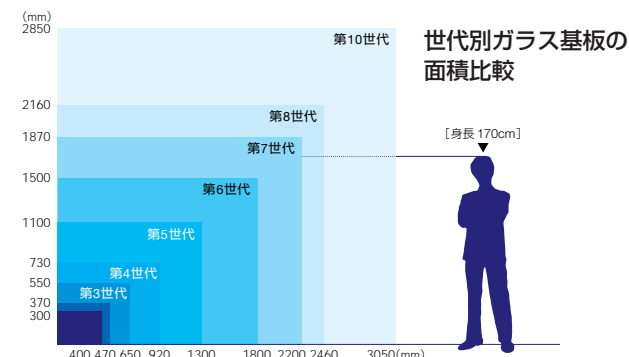
第8世代カラーフィルターのガラス基板サイズ



52インチテレビ向けカラーフィルターが6枚



32インチテレビ向けカラーフィルターが18枚



※液晶パネルメーカーによってサイズが異なります。



第8世代液晶カラーフィルター

多彩なディスプレイ製品

Display Components



光学フィルム等を製造する三原工場

■ 高機能化する光学フィルムの展開

DNPIは、液晶ディスプレイやプラズマディスプレイなどの薄型ディスプレイに使われる光学フィルム分野でも、積極的な事業を展開しています。

光学フィルムの主力製品は、ディスプレイ表面への外光の映り込みを防止し、画面のコントラストを向上させる表面フィルムです。また、近年増加しているタッチパネル機能付きディスプレイに対応した、傷や汚れの防止機能を高めた表面フィルムも供給しています。ほかに、液晶ディスプレイのバックライト用フィルム、プラズマディスプレイ用電磁波シールドフィルムなど、印刷で培ったコーティング技術を活かした光学フィルムを提供しています。



液晶ディスプレイ用
反射防止フィルム

■ 映像をきれいに見せる製品の数々

DNPIは、明るい場所でもプロジェクターの映像を鮮やかにくっきり表示できるフロントプロジェクションスクリーン「JETBLACK®」を開発し、販売しています。この製品は、プロジェクターからの光を効率よく反射し、それ以外の光を吸収するよう光学設計を行ったスクリーンで、日本国内、欧米、アジアなどでシェアを拡大しています。

そのほか、外からの光を吸収させプラズマディスプレイの映像を際立たせるコントラスト向上フィルムなどを開発しています。DNPIは、市場のニーズを的確に把握するとともに、新技術・新製品の開発に努め、事業拡大を図っていきます。



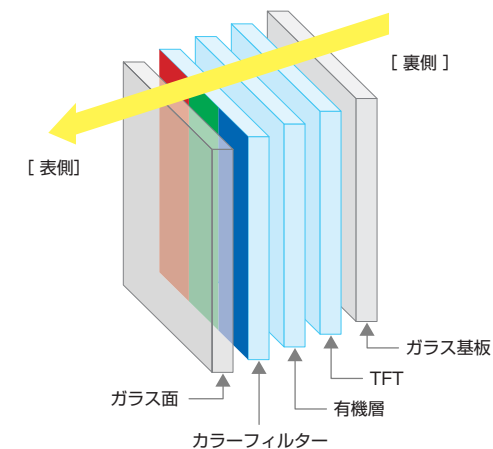
フロントプロジェクションスクリーン「JETBLACK®」

■ 期待される有機ELディスプレイへの対応

有機ELディスプレイは、有機ELの自発光で映像を表現するため、バックライトを使用しません。このため、液晶やプラズマよりも薄くしたり省電力化したりすることができます。鮮やかな色再現性と広い視野角での見やすさといった特徴も持っており、次世代のディスプレイとして注目されています。また、有機ELとカラーフィルターを組み合わせることで、さらに色再現性を高め、より低コストで大型化に対応することができます。DNPは、世界をリードするカラーフィルター製造技術を活かして、有機ELに適した材料や製造プロセスを開発し、有機ELメーカーから高い評価をいただいています。

今後は、各企業との共同開発なども積極的に行い、カラーフィルターや各種モジュールなど、すべての可能性を視野に入れて、研究開発を進めていきます。

有機ELディスプレイの基本的な構造 (トップエミッション方式の例)



高機能な
ディスプレイ用
光学フィルムの多彩な
ラインアップ

鮮やかな
映像表示を可能にする
スクリーン製品の
拡大

市場ニーズを
反映した
新技術・新製品の
開発

有機ELディスプレイ
に対応した
積極的な展開

連結業績の概況

(単位：億円)

科目	当第1四半期	前第1四半期
売上高	3,898	3,856
営業利益	188	173
経常利益	210	197
四半期純利益	99	89

連結業績の予想 (平成21年3月期通期)

(単位：億円)

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
16,800	880	880	455

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期)70円30銭(予想年間期中平均株式数による)

ポイント解説

売上高は、情報コミュニケーション部門で、パーソナルメールなどのデータ入力から印刷・発送までの業務を行うIPSが増加し、生活・産業部門では薄型ディスプレイ向けの反射防止フィルムや、フォトプリンター用インクリボン及び受像紙が増加しました。エレクトロニクス部門においては、液晶カラーフィルターが、需要の順調な拡大に加え、亀山工場の生産が寄与し、大幅に増加しました。この結果、売上高は3,898億円(前年同期比1.1%増)となりました。

営業利益は、生活・産業部門で原材料価格上昇の影響を大きく受けておりますが、エレクトロニクス部門では56億円(前年同期比113.6%増)全体で188億円(前年同期比8.7%増)となりました。四半期純利益は、99億円(前年同期比11.2%増)となりました。

連結貸借対照表 (平成20年6月30日現在)

(単位：百万円)

科目	当第1四半期	前第1四半期
資産の部		
流動資産	657,334	711,886
固定資産	895,058	904,950
有形固定資産	636,260	642,156
無形固定資産	40,134	26,883
投資その他の資産	218,663	235,909
資産合計	1,552,392	1,616,836
負債の部		
流動負債	434,992	439,057
固定負債	108,878	120,019
負債合計	543,870	559,077
純資産の部		
株主資本	960,612	986,970
資本金	114,464	114,464
資本剰余金	144,898	144,898
利益剰余金	794,387	824,497
自己株式	△ 93,138	△ 96,889
評価・換算差額等	10,968	43,390
その他有価証券評価差額金	13,884	39,964
繰延ヘッジ損益	△ 16	△ 8
為替換算調整勘定	△ 2,899	3,434
少数株主持分	36,940	27,397
純資産合計	1,008,521	1,057,759
負債及び純資産合計	1,552,392	1,616,836

連結損益計算書 (平成20年4月1日から平成20年6月30日)

(単位：百万円)

科目	当第1四半期	前第1四半期
売上高	389,829	385,665
売上原価	319,532	318,865
売上総利益	70,296	66,800
販売費及び一般管理費	51,447	49,453
営業利益	18,848	17,346
営業外収益	4,732	3,930
営業外費用	2,497	1,570
経常利益	21,084	19,707
特別利益	376	7,531
特別損失	1,597	8,294
税金等調整前四半期純利益	19,863	18,944
法人税、住民税及び事業税	4,016	3,268
法人税等調整額	5,806	6,844
少数株主利益(△損失)	67	△ 145
四半期純利益	9,972	8,977

セグメント別の状況

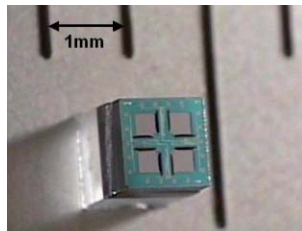
印刷事業



情報セキュリティビジネス



フォトプリントシステム「PrintRush」



MEMS製品

清涼飲料事業



清涼飲料

情報コミュニケーション部門

売上高	1,634億円
前年同期比	5.2%増
営業利益	82億円
前年同期比	8.3%減

生活・産業部門

売上高	1,383億円
前年同期比	0.2%減
営業利益	75億円
前年同期比	10.0%減

エレクトロニクス部門

売上高	764億円
前年同期比	3.6%減
営業利益	56億円
前年同期比	113.6%増

清涼飲料部門

売上高	154億円
前年同期比	1.5%減
営業損失	3億円
	—

トピックス

4月8日発表

◆ユニマイクロンとプリント基板事業の合併会社を設立

台湾の世界的なプリント基板メーカーであるユニマイクロン・テクノロジー・コーポレーションと、プリント基板の製造・販売を行う合併会社「UD Alliance Technology Limited」を香港に設立しました。携帯電話向けなどで需要が高まっている小型で高機能なプリント基板を製造するDNPのビー・スクエア・イット技術を活用し、事業の一層の拡大を図るとともに、ユニマイクロンに同技術をライセンスすることで世界標準化を進めていきます。



多層プリント基板

5月14日発表

◆世界初、箔押し加工技術による低価格の紙製UHF帯ICタグを開発

書籍や包装などで使われる“箔押し”を応用した独自技術により、世界で初めて、紙の上に直接通信用のアンテナを形成した低価格のUHF帯ICタグを開発しました。このICタグは、印刷工程の中で書籍や伝票などに直接加工できるため、製造工程の簡略化と、従来よりも約30%のコスト低減が可能となります。



紙製UHF帯ICタグを使ったサンプル

6月19日発表

◆国内初、投資信託販売業務でデジタルペンによる営業支援システムを本格導入

記入と同時にデジタルデータが作成され、業務負荷を軽減するデジタルペンを活用して、信託銀行最大手の三菱UFJ信託銀行株式会社向けに営業支援システムを開発しました。銀行の投資信託販売業務で、デジタルペンのシステムが本格導入されるのは国内初です。



デジタルペンと申請書サンプル

6月24日発表

◆3次元CGを活用してホログラムの完成画像をシミュレーションするソフトを開発

実物を作成する前に、ホログラムの立体感や色合いなどをパソコンの画面上で確認できるシミュレーションソフトを開発しました。これにより、3次元CGデータからホログラムを作成する期間を従来の10分の1に短縮することができます。金券類や各種カードの偽造防止、様々な製品のブランド保護などの用途で、ホログラムを積極的に販売していきます。



シミュレーション画像

DNPは、「本業に近いところで、息長く」をモットーに、オリジナリティあふれる文化活動を行っています。最近の活動を紹介します。

■ルーヴル-DNP ミュージアムラボ

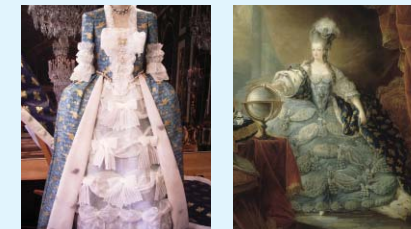


「ルーヴル-DNPミュージアムラボ第4回展」
(左)ホワイエ (右)展示室 ©Photo DNP

第4回展として、「都市スーサとその陶器、イスラム時代の創成期」を2008年4月5日～2008年9月27日に開催しました。イスラム文明創成期に制作され、主要都市であったスーサから出土した陶器5点を展示しました。

観覧者は、映像やITを活用した鑑賞システムにより、イスラム文明創成期における都市スーサ周辺の様子や地理的背景、都市の歴史、この時代の特徴的な陶器制作様式の変遷や技法などに関する情報を得ることで、展示作品への理解をより深めることができます。

■マリー＝アントワネットのドレスを再現



(左)紙と特殊印刷で制作したドレス (右)《地球儀を右手で支えるフランス王妃マリー＝アントワネット》(部分) ©Photo RMN - ©Droits reserves

フランスの文化・芸術に親しむための施設「メゾン・デ・ミュゼ・ド・フランス」が今年開設5周年を迎えました。これを記念して優美で華やかな17-18世紀のフランス宮廷文化にスポットを当て、「マリー＝アントワネットのドレスを再現する」をテーマとした企画展示を5月末まで開催しました。今回の企画展では、この時代の文化を代表する王妃マリー＝アントワネットの肖像画に描かれた、王妃の身につけているドレスを特殊印刷を施した紙で制作しました。

LOUVRE-DNP
MUSEUM LAB

MAISON des
MUSÉES de
FRANCE

2008年4月から6月の

ggg

ギンザ・グラフィック・ギャラリー

■第263回企画展「アラン・フレッチャー：英国グラフィックデザインの父」を開催

世界のグラフィックデザインに大きな影響を与えたアラン・フレッチャーの企画展では、ポスターを中心に約60点を紹介しました。長いキャリアの中で、ビジュアルへの豊かな好奇心を保ち続けたフレッチャーの世界が見てとれる内容です。

■第264回企画展「がんばれニッポン、を広告してきたんだそう言えば、俺。応援団長佐々木宏」を開催

シンプルで強いアイデアを用いて、見る人へ鮮烈な印象を残す数々のTV-CMや新聞広告などを次々に世に送り出し、ヒットを連発しているクリエイティブディレクター・佐々木宏。この展覧会では、クリエイティブディレクターの役割、広告が果たす効能・効果、広告の面白さや魅力を紹介しました。

■第265回企画展「2008 ADC展」を開催

ADC（東京アートディレクターズクラブ）は、1952年の創立以来、日本の広告・デザインを牽引する活動を続けています。毎年ADCでは、全会員が審査員となり、ポスター、新聞、雑誌、テレビなど国内の広告・デザインの中から優れた作品を「ADC賞」として選出しており、日本の広告・デザイン界で最も名譽ある賞の一つとして注目を集めています。

国内初、細胞パターン培養基板「CytoGraph™」を製品化

DNPのバイオマテリアル研究所は、東京医科歯科大学と、印刷に使われるパターンニング技術を再生医療分野に応用する共同研究を進め、毛細血管の転写技術の確立に成功しています。この成果を活かし、2008年7月に、細胞を様々なパターンで安定的に培養できる基板「CytoGraph™（サイトグラフ）」の販売を開始しました。この製品は、印刷技術を活用して、基板のガラス表面に細胞が定着する領域と定着しない領域を任意のパターンで形成するものです。医療・研究機関などで使われる細胞培養用の基板として、日本で初めて製品化しました。

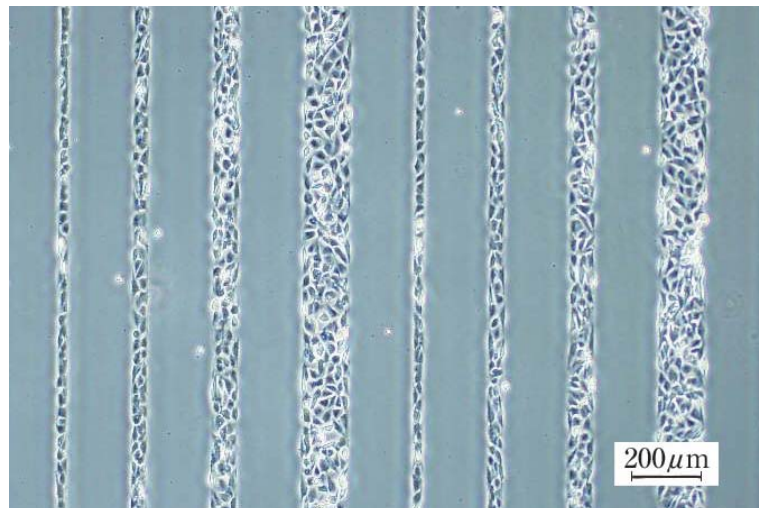
近い将来、化粧品テストでの動物利用がヨーロッパ諸国では禁止となる見込みであり、こうしたテストマ

ーケットに向けて、細胞チップの開発なども進めています。また、この技術は、床ずれなどで損傷した皮膚の修復、歯周病の治療などにも効果を発揮すると見込まれています。皮膚の修復にはこれまで、投薬による皮膚形成の促進、患者自身または他者からの皮膚移植などが用いられてきました。DNPが共同開発している新技術は、患者自身の血管内皮細胞から血管を形成し、コラーゲンなどの膜に付着させて患部に貼付することにより、手術が不要となり、免疫反応も発生しないため、大きな期待が寄せられています。

今後も印刷技術のライフサイエンス分野への応用を目指して、細胞パターン培養などに関する調査・研究開発を進めていきます。



CytoGraph™



パターン培養された細胞の顕微鏡写真

コアテクノロジー【パターンニング技術】

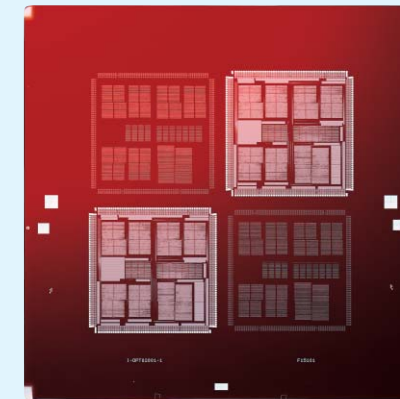
DNPは、「印刷技術」と「情報技術」を核に新技術や新素材を開発し様々な分野に応用しながら、世界の印刷業界をリードしています。この「コアテクノロジー」では、そうした注目の技術を紹介します。今回は、エレクトロニクス関連製品や左頁の「CytoGraph™」などにも応用されているパターンニング技術です。

◆パターンニング技術

印刷の製版工程で用いられるパターンニング技術とは、文字・写真・イラストなどの印刷原版用の画像を作る技術です。高品位印刷の網点の精度が100分の1mm程度であるのに対して、半導体製品の原版であるフォトマスクでは、100万分の1mmのナノレベルの精度が求められています。DNPは、生産設備やシステムの開発を行いながら、この技術を世界最高レベルの精度にまで高めてきました。

◆製品への展開

DNPが超高精度のパターンニング技術をエレクトロニクス分野に応用した最初の製品が、1958年に開発したカラーテレビ用のシャドウマスクです。テレビのカラー化に欠かせないシャドウマスクは、厚さがわずか0.2mm程度の金属板に、数百万個を超える超微細な孔を開けたものです。その精度は、打ち抜き加工などの従来技術では不可能だといわれ、高度な印刷技術によって、高速での大量生産が可能になりました。



パターンニング技術に応用したフォトマスク

現在では、こうした高度なパターンニング技術が、液晶ディスプレイ用カラーフィルターなどに受け継がれ、世界トップクラスの評価を獲得しています。半導体製品の原版であるフォトマスクについても、1959年の開発以来、一貫して最先端の微細加工技術に取り組んだ結果、技術開発のトップを走り続けています。

ビジネスの裾野を広げるCAD-CG

自動車や輸送機械、住宅設備や電気製品のメーカーなどは、製品の完成前から製品サンプルを作るなどして販促活動を行っています。このサンプル製作の期間やコストを圧縮するため、製品の設計に使用するCADデータを販促に利用したいというメーカーの要望がありました。

DNPIはこのニーズに応え、2006年から製品設計用のCADデータを元に高品質な3次元CGデータを制作し、販促物などに展開する「CAD-CG (キャドシージー)」のサービスを提供しています。このサービスでは、実物

の写真や映像と見分けがつかないほどの超高精細な3次元CGによって、製品の完成を待つことなく、カタログやパンフレット、CMなどの制作を進めることができます。これにより、メーカーは販促効果の向上と制作コストの削減を実現できるようになりました。

今後、より高品質な3次元CGを制作するための表現技術や、効率的な制作プロセス、新たなシステムの開発・導入などを進め、「CAD-CG」を多様なメディアに展開し、事業を拡大していきます。



実写映像と3次元CGをリアルタイムで合成するインタラクティブコンテンツ

※「飛び出す電子絵本」として、東京・青山の先端技術館@TEPIAにて、ご覧いただくことができます。

会社概要

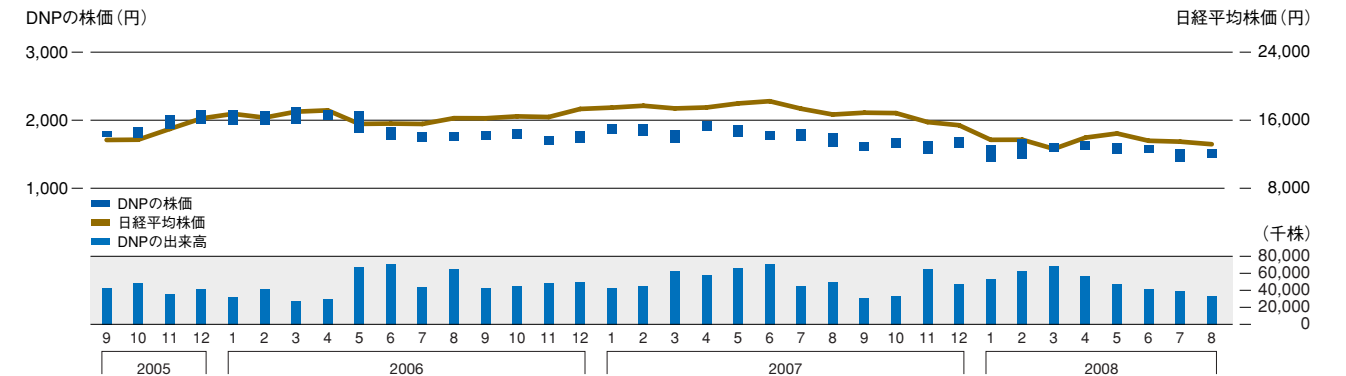
商号 大日本印刷株式会社	創業 明治9年(1876年)10月
英文社名 Dai Nippon Printing Co., Ltd.	設立年月日 明治27年(1894年)1月19日
本社所在地 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 電話 03(3266)2111 ダイヤルイン案内台 URL http://www.dnp.co.jp/	資本金 1,144億6,476万円

株式の状況

Stock Information

発行済株式総数 700,480,693株

株価/出来高推移



自己株式の取得に関するお知らせ

平成20年2月8日開催の取締役会の決議に基づき、自己株式の取得を実施いたしました。

取得期間	平成20年2月12日から平成20年6月23日まで
取得株式数	25,000,000株
取得総額	40,220,458,000円